

1. はじめに

昨年9月からのイギリスでの生活を終えて3月下旬に日本へ帰国した。日本から孤立した生活は決して楽ではなかったが、半年間の経験がこれからの人生において絶対にプラスになると思うと、楽しかった思い出のみならず、辛く孤独に感じた思い出も笑って思い出すことが出来る気がする。

3月の学習面と生活面を含めて半年間の経験をメインに報告する。

2. 学習面

3月の授業はテスト対策をメインとした内容で、各々が目標とするスコアを目指して学習に取り掛かっていた。10月から12月に受講していたクラスよりも内容が難しくなり、プレゼンテーションはより説得力のある内容や表現を求められた。課題や最終テストに向けての学習において理解し難い際には先生やクラスメイトに気軽に聞ける環境にあったので、お互いに成長し合えた環境に感謝している。徐々に授業に慣れてくると、先生への質問やクラスメイトとの意見交換などを積極的に出来る様になった。まだ授業に慣れていない時は、先生からの課題を聞くだけでも一苦労し、如何に母国語での授業が恵まれているのかを常感じていた。日本に居る際はそのようなことは一切思うことはなく、何かに対して感謝することもなく、不平不満などを探していたかもしれない。

日本に滞在することで英語との関わりが希薄になることがあるが、TOEFL や TOEIC などの受験を目安に英語力の向上を目指す。

3. 生活面

日本の生活が当たり前になっていた半年前は海外での生活の始まりに不安などがあり、楽しむ思う余裕がなかった。24時間空いているコンビニ、電車やバスが時間通りに到着、駅員の丁寧な対応、ルールを重視した社会文化、日本の素晴らしさは海外に住んでみて初めて気づく事が出来た。しかし、数か月経過すると環境に自然と適応し、更にはこの先、英語圏に限らずどこでも生きていくことが出来るだろうという自信に繋がった。

日本に居る時は同じ文化、同じ感覚、同じ肌の色の人が周りにいることで居心地の良さも気づかずに過ごしていた。海外で外国人として過ごすのは相手の常識に合わせる必要があり、この点に関してはあまり問題はなかった。しかし、日本に居る際に外国人の気持ちなど考えなかったと思うようになり、もし機会があるのならば積極的に外国人との交流を図ろうと思った。恐らく日本は日本人にとっては快適に暮らせるが、外国人からするとルールや常識が窮屈に感じることもあるのだろう。

コロナ禍での海外での生活は日本の常識とはかけ離れていた。イギリスは特にコロナウイルスとの共存を意識しており、その点に関しては共感することは出来なかった。しかし、自分自身がマスクや手洗いがいなどを徹底することで病気にかかることなく過ごすことが出来た。

4. おわりに

半年間の異国での生活は日本では起こり得ないことの連続だったが、一つ一つの経験が今後に生きていくだろう。周囲の人のサポートに心より感謝し、いつかは誰かをサポートできる人間になれたらと思う。



ロンドン市街



ウェストミンスター宮殿

以上で3月分の月例報告を終了する。